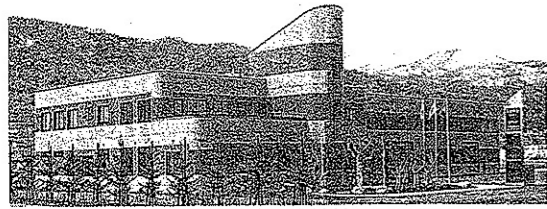


理研興業が創業 50 周年

社会に貢献する製品づくり
さらなる技術研究に努力

県内でも長年の実績がある防雪柵・防風柵老舗メーカーの理研興業(株)(本社・北海道小樽市・柴尾耕三社長)は、このほど創業五十周年を迎えた。同社では今後社会ニーズに対応した製品開発研究に取り組み、高品質な製品を送り続けていきたいとしている。

同社の歴史は現在の理化工学研究所を母体とした新理研工業(株)及び理研商事(株)の北海道営業所として昭和二十四年に発足し、理研系各社の製品販売を手がけてきたが、同三十年に新理研工業が大同製鋼(株)と合併を機に、営業所が閉鎖された。しかし、取引先などから営業所の存続要望を望む声が多いことから、同三十年十一月に理研興業



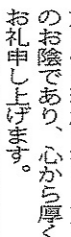
理研興業の本社社屋



ごあいさつ
「物づくり」の原点に
代表取締役社長 柴尾 耕三

当社は昭和三十年の創業以来、厳しい時代の波に柔軟な姿勢で対応し、今日まで堅実な成長を遂げてまいりました。

防雪・防風対策製品ならびに道路維持製品の製作専門メーカーとして各種製品を開発・販売し、北国の発展に小さきながらも貢献してきたつもりでございます。これもひとえに、各発注機関をはじめ関係方面の



方々のご理解と温かい支えのおかげであり、心から厚くお礼申し上げます。

技術開発 製品開発に投資を惜しまず、その結果、高度な技術力を駆使した高精度・高性能な製品の提供が実現し、発注機関をはじめ多くの方々に高い評価をいただいております。

れ反響を受けた。以降は業容拡大により、鋼材による防雪柵を開発することに業界で初めて成功し、以後自立型支柱折りたたみ式吹払柵「やまね」に配慮した「完全収納式防雪柵」のほか、「連動型昇降型防雪柵」など次々とヒット商品を開発し、北国のドライバーへの安全性を重視したライフラインを提案し貢献してきた。



(社)北海道開発技術センター
理事長 熊谷 勝弘氏

創業五十周年大慶に存じ上げます。

国土交通省独立行政法人評価委員
田村 嘉子氏



創業以来、一瞬も立ち止まることなく、あるときは

農機(株)と技術提携、新型防雪柵の開発に着手。さらにはカラマツ間伐材を使用し、北海道立林業試験場との共同開発で「木製高性能防雪柵」が農林省の先端技術を活用した農林水産研究高度化事業に採択を受けたほか、自社製品の「高性能防雪柵(誘導板付忍び返し柵)」も国交省の「公共工事において試行的に活用する技術」にも選定。全国一五二件の応募から八件が選定されたうちの二つで、東北以北では初の受賞となった。

昭和三十年発足以来、独自の研究姿勢のもと、特に風洞実験施設を用いた冬季の吹雪メカニズムの解明とその成果を防雪防風の対策に応用された技術の創造性は全国的にも高く評価されております。冬季の安全で円滑な交通対策は雪国にとり、社会的にも最大課題であります。

お祝いの言葉

吹雪のなかでの現地冬季調査を積み重ねて、より効果的な防雪柵の開発に尽力してこられた理研興業(株)が、ここに五十年の歴史を刻まれたことに敬意と祝意を捧げます。

現地にもっとも適した防雪柵を設置することでドライバーを地吹雪から守るこ

このほか、アルミ建材の大手メーカー・立山アルミニウム工業(株)(本社 富山県高岡市)とも技術提携して共同開発した翼型防雪柵「スノーブレイド」も、高規格道路にも対応した画期的な製品として注目を集めている。同社では「今後も新製品開発の向上に、さらに取り組んで努力していきたい」としている。

題であります。その意味で、貴社の高度で高性能を有する画期的な技術は極めて有意義なものといえます。今後とも研究開発の研鑽に努められ北国の発展に寄与することを祈念いたしております。

とが、この業務に携わる技術者の使命であることに徹し、さらに研鑽を重ねつつ、雪国の雄として飛躍されたいことを祈念しております。

